

ポスターの日本語を洗練させよう！

科学的なポスター発表は、感想文や小論文とは異なり、「客観性」と「論理性」が求められます。ポイントを整理してみましょう！

1. 一人称と三人称の使い分け

原則：基本は「三人称（客観視点）」、強調したい時は「一人称」

学術的なポスターでは、「誰がやったか」よりも「何が起きたか（事実）」が重要です。そのため、主語を省くか、事物を主語にするのが一般的です。

NG（主観的すぎる）：「私たちは、この実験を通して〇〇だと考えました。」

OK（客観的）：「本研究の結果から、〇〇であると推測される。」

具体的な使い分けの文例

項目	基本的なスタンス	具体的な文例
背景・目的	三人称（客観的事実）	「従来の研究では～とされてきた」 「本研究の目的は～である」
考察・主張	一人称（自分たちの意見）	「筆者らは～と考える」 「我々の結果は～を示唆している」

※最近の国際学会では、責任の所在を明らかにするために「We found（私たちは～を見つけた）」と一人称を使うケースも増えています。しかし、どの場面で「We」を主語にするかは難しい問題です。僕は、一方で、「私たちは〇〇を測定した」という表現は使う場合があります。一方で、結論では、よっぽど自信が無い限り「我々は〇〇を発見した」というような使い方での「We」は使いません。高校生のポスターでは「客観的な事実」と「自分たちの意見」を区別させるために、まずは三人称での記述を基本にするのが書きやすいでしょう。

2. 「洗練された表現」への言い換えリスト（中道は「文章を硬くする」と呼んでいます）

(1) 背景・目的（Introduction）「なぜこの研究を始めたか」を説明するセクション

日本語の日常表現	ポスター向けの硬い表現	英語の洗練された表現
～に興味を持った	～に着目した / ～を焦点とした	We focused on ... Attention was drawn to ...
～はまだわかっていない	～は未解明である / 不明な点が多い	... remains poorly understood. ... has not been fully elucidated.
～を調べようと思った	～の解明を目的とした	The objective of this study was to clarify ...
～と言われている	～と報告されている / ～とされている	It has been reported that ... It is generally accepted that ...

(2) 方法（Methods）「何を使って、どう動かしたか」を正確に伝えるセクション

日本語の日常表現	ポスター向けの硬い表現	英語の洗練された表現
～を使った	～を用いた / ～を使用した	... was employed. / ... was utilized.
～を混ぜた	～を混合した / ～を添加した	... was added to ... / ... was mixed with ...
～を測った	～を測定した / ～を算出した	... was measured. / ... was calculated.
～に分けた	～に分類した / ～に区分した	... was classified into ... / ... was divided into ...

(3) 結果 (Results) 「何が起きたか」を事実のみ述べるセクション

日本語の日常表現	ポスター向けの硬い表現	英語の洗練された表現
～になった	～という結果が得られた	... was observed. / ... was obtained.
増えた / 減った	増加傾向を示した / 減少した	... showed an increase. ... decreased significantly.
図 1 を見てくださ い	図 1 に示す通り / 図 1 より	As shown in Figure 1, ... Figure 1 illustrates ...
差があった	有意な差が認められた	A significant difference was found.

※「有意な差」と言う表現を使うときは統計的に有意であることを必ず示すこと

(4) 考察・結論 (Discussion/Conclusion) 「結果から何が言えるか」という自分たちの意見を述べるセクション

日本語の日常表現	ポスター向けの硬い表現	英語の洗練された表現
～だと思う	～と考えられる / ～と推察される	It is suggested that ... It is considered that ...
～のせいだ	～に起因すると考えられる	... can be attributed to ...
～とだいたい同じだ	～と一致する / ～と整合する	... is consistent with ...
これからは～したい	今後の課題は～である	Further research is needed to ...

5. 表現を使い分けるための「自己チェック」その 1

「それは『あなたの感想』？それとも『誰が見てもそうなっている事実』？」

→ 感想なら「～と考えられる」、事実なら「～が明らかになった」へ。

「主語は『人間』？それとも『実験道具やデータ』？」

→ 道具やデータが主語なら、受動態や「～を示している」という表現へ。

「100%言い切れる？それとも 80%くらい？」

→ 100%なら「～である」、80%なら「～の可能性はある」「～を示唆している」

へ。

もっと自信が無いなら「思われる」

6. 表現を使い分けるための「自己チェック」その 2

□ Check: 文の主語が「図 1」や「試料」や「本研究」になっていますか？

例: (△) 私たちはグラフを見て、数値が上がっていると分かった。

(◎) 図 2 より、温度の上昇に伴い反応速度が増加することが明らかになった。

(English) Fig. 2 shows that the reaction rate increases with temperature.

□ Check: 「絶対～だ」と断定しすぎていませんか？ 根拠に基づいた推測になっていますか？

例: (△) この結果は、成分 A のせいだ。

(◎) この結果は、成分 A の影響によるものと推測される。

(English) This result suggests that Component A influences...

※根拠 (エビデンス) のない「言い切り」をしていませんか？科学の世界では、100%の真理以外は「～と考えられる」と謙虚に表現するのがルールです。

□ Check: 「何を使って、どうしたか」が受動的 (または動作中心) に書かれていますか？

例: (△) まず試験管を振って混ぜました。

(◎) 試験管を 30 秒間攪拌 (かくはん) した。

(English) The test tube was shaken for 30 seconds.

※誰か他の人が読んだとき、同じ実験が再現できるかどうか重要です。

□ Check: 文末がすべて「～である」「～した」「～だ」に統一されていますか？

例: (△) ～を測定しました。結果は以下の通りだ。

(◎) ～を測定した。結果は以下の通りである。

※謝辞以外は「～である」「～した」「～だ」で統一。

□ Check: 「今日の前にある図」の説明や「普遍的な事実」は現在形、「自分たちがやった実験」は過去形

例: (過去形) We measured the weight. (実験した事実)

(現在形) **Figure 3 indicates the trend.** (今そこにある図の説明)
※英語ポスターの場合、時制のルールは非常に厳格です。